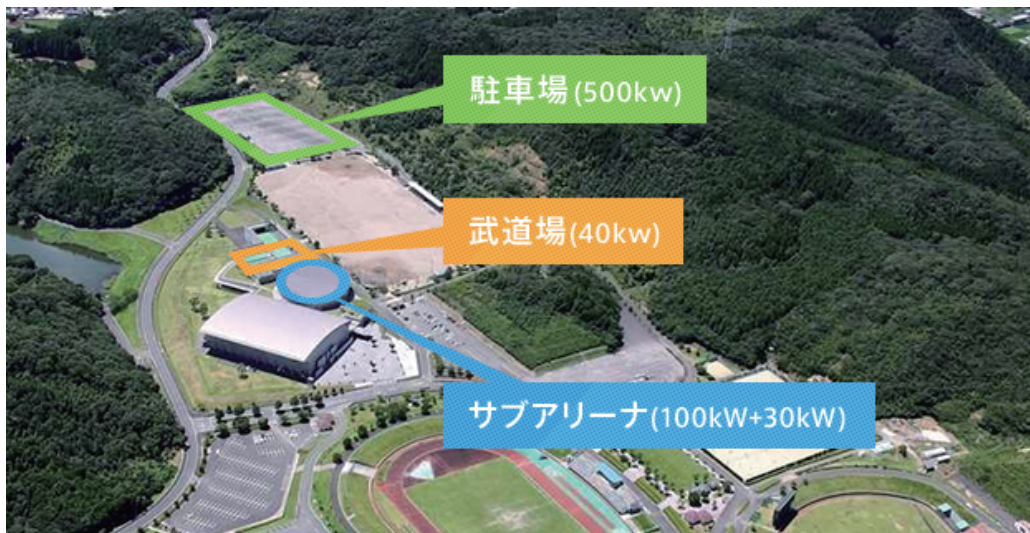


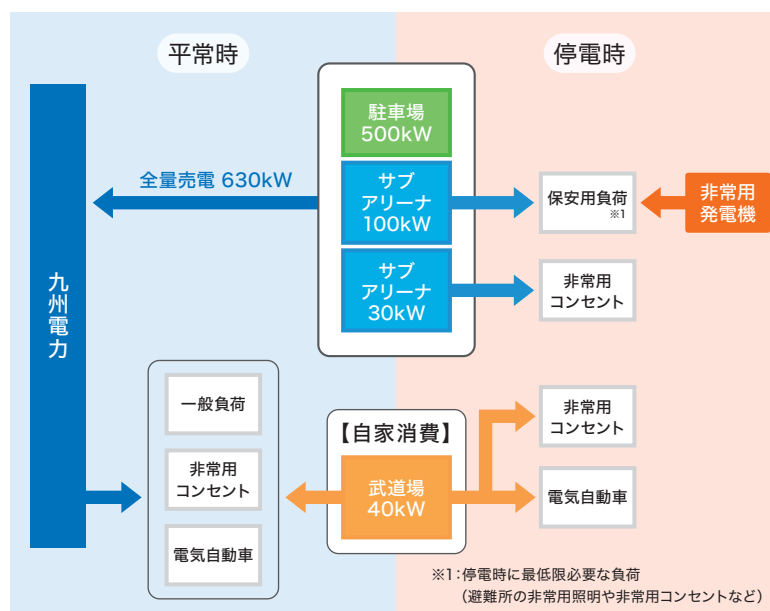
「薩摩川内市総合運動公園」 日本初のレジリエンス強化太陽光発電

2012年に薩摩川内市から公募された「非常時に避難所となる市内総合運動公園の再生可能エネルギー等を用いた防災機能強化」に対し、通常時は九州電力(株)へ売電・災害時は発電量の一部を避難所へ供給する当社(当時(株)キューデン・エコソル)の提案が採用されました。
 本事例では、FIT制度に加えて当社オンサイト発電サービスを活用することで市の初期費用負担を無くすとともに、設計・工事・運用を当社が行うことで、安定した運営を実現しています。



防災機能の概要

- ① 通常時は、太陽光発電630kWを全量売電、残り40kWを自家消費します。
- ② 停電時はサブアリーナ100kW分・30kW分を、避難所の非常用照明や非常用コンセント等の回線に接続し、非常用発電機の運転時間を延ばします。
- ③ 武道場40kW分は停電時、晴天の昼間に非常用コンセントを利用できます。また、電気自動車を充電しておくことで、発電ができない雨天・夜間に電気を送る蓄電池として利用できます。



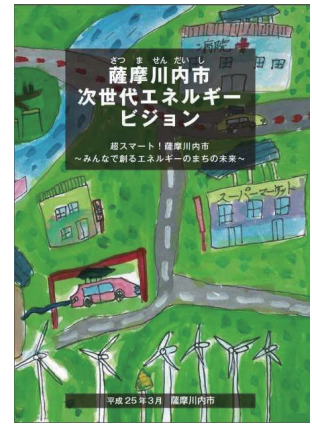
インタビュー

運転開始からまもなく1年を迎える2015年2月に、この事業を担当された薩摩川内市新エネルギー対策課久保課長(当時)へ振り返っていただくインタビューを行いました。

なぜこのような公募を行ったのでしょうか。改めて狙いを教えてください。

薩摩川内市は元々水害に悩まされ避難意識の高い地域でした。平成23年3月の東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故を受けて、電気・エネルギーの重要性を再認識し、次世代エネルギーを活用するために平成23年10月に新エネルギー対策課を作り、平成25年3月に薩摩川内市次世代エネルギービジョンを策定しました。エネルギービジョンの表紙は「エネルギーのまち・さつませんだいの未来」というテーマで描かれた市内の小学校4年生の絵となっています。この緑や青のあふれる絵のように豊かな自然を残しながら便利さを実現するというビジョンです。そして市民より防災対策の充実を望む声が多く寄せられていました。

そこで避難所となる総合運動公園を、再エネを用いた防災機能強化策により強靱な施設にする公募を行いました。公募について、こちらはビジョンをお示して、機能は企業の考え・アイデアを取り入れるようにしました。ちょうど固定価格買取制度も始まり、充てる税金を削減できることも助かりました。



表紙

様々な提案があった中で、当社の提案が評価された理由を教えてください。

優れた技術や斬新なアイデアを持って、我々の想い(エネルギービジョン)と合致する提案をいただいたところです。

災害時だけでなく平時をどうするかも重要な視点でした。災害時用の太陽光発電を切り替えて平時は全量売電を行うようにするという提案は、ほんとにできるのかと思いましたが、貴社の技術や国との調整で実現してくれました。

また総合運動公園は、公園法の関係で屋根でないと太陽光発電設備を設置できないという規制がありましたが、駐車場に屋根を作るといった斬新なアイデアで大きく太陽光パネル面積を確保してもらいました。



薩摩川内市次世代エネルギーのロゴ

当社を採用いただき、工事を進める際の対応はいかがでしたでしょうか。

九電グループということできちんとしており、書類手続きや許認可調整がスムーズに進みました。また公共工事の実績もあるため工事もスムーズでした。

工事は公共工事並みの品質管理で進み、手順のやりとりも安心できるものでした。20年間の長期間耐えるものを作るためには最初の品質が大事なのだという意識を、こちらが教えてもらいました。

最後に今後の関係に向けてご意見お聞かせください。

薩摩川内市の次世代エネルギー施設は視察を受け入れているので、貴社の開発対応で再エネ施設に興味があるお客さまがあれば紹介ください。

これからも再エネの普及と一緒に協力していきましょう。